

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年3月8日

No. 17

会社：ベアは実施できる状況ではない！
組合：会社は交渉に責任を持つべきだ！

12春闘第4回賃上げ交渉報告！

中央本部は、本日10時から「12春闘第4回賃上げ交渉」を行いました。本日の賃上げ交渉は、前回の組合の要求根拠に対する会社の考え方を明らかにしました。会社の考え方は以下の通りです！

- ①H23年度の収入動向は、3月に入りコンテナは減少だが車扱が増加にありほぼ計画通りである。大きな障害がなければ今年度黒字になる見込みである。今後も収入確保に全力を挙げる。
- ②H24年度の事業計画は5億円の経常利益を計画としている。仙台臨海・石巻港の復興と減収分を挽回し更なる収入確保に努める。また線路使用料・動力費・修繕費がコストアップする見込みなので厳しい状況である。
- ③国内総物量も長期的には、減少状況である。
- ④以上の状況から、i 定期昇給については実施するが、ベアの実施は厳しい。前回交渉で「検討」と言っておいて誤解を招いたことに謝罪。ii 55歳以上の賃金改善は昨年並みとする。iii B単価については割増賃金総体で考えており、貨物の特性として夜勤手当を厚くしているから増額は考えていない。iv 新規採用については、早急に要員需給を提示する。H24、H25年は要員は充足すると見ている。

中央本部は、無責任な考え方を断じて許さず以下の点について糾しました。

- ①そもそもベアを出すことを考えていなかったとしか考えられない。会社は組合と向き合っていない。交渉に責任を持つべきだ。
- ②会社は厳しいと言うが、その中身が分からない。我々の生活の方がもっと厳しい。不毛な議論は必要ない。
- ③B単価も総体でなく、B単価として要求を出している。重みを受け止め真剣に向き合うべきであり、支払い能力はあると考える。
- ④現在でも現場は病欠含めて欠員状況にある。更に今後瓦礫輸送を担う時に動き出したら要員も必要になる。5年先を見据えた体制にしないと迅速に対応できない。
- ⑤前回交渉でベアの重みを受け止め検討するという事が、誤解を招いたという事で済まされる問題ではない。言葉に責任を持つべきである。よって会社の考え方について我々は認めない。社内で検討し回答指定日までに誠意ある回答を示すべきだ。

組合員のみなさん。会社は前回の交渉においてベアの重みを理解し検討すると言っておきながら今交渉では、発言を撤回するなど無責任な対応に終始しています。

私達は、震災以降石油迂回列車や年末の復活運転を担い、集中豪雨や大雪による大幅な輸送障害に対し、職場の必至の努力により乗り切ってきました。今年度黒字を達成し来年度黒字計画を達成するために頑張るといふのなら、ベアを出せない理由はどこにもありません！職場の苦勞を言葉でごまかす会社経営陣の無責任な姿勢に対し「3.15全国統一行動」を成功させ組合員の総団結を持ってベアゼロの壁を突破しようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを改めて決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月16日（金）です。